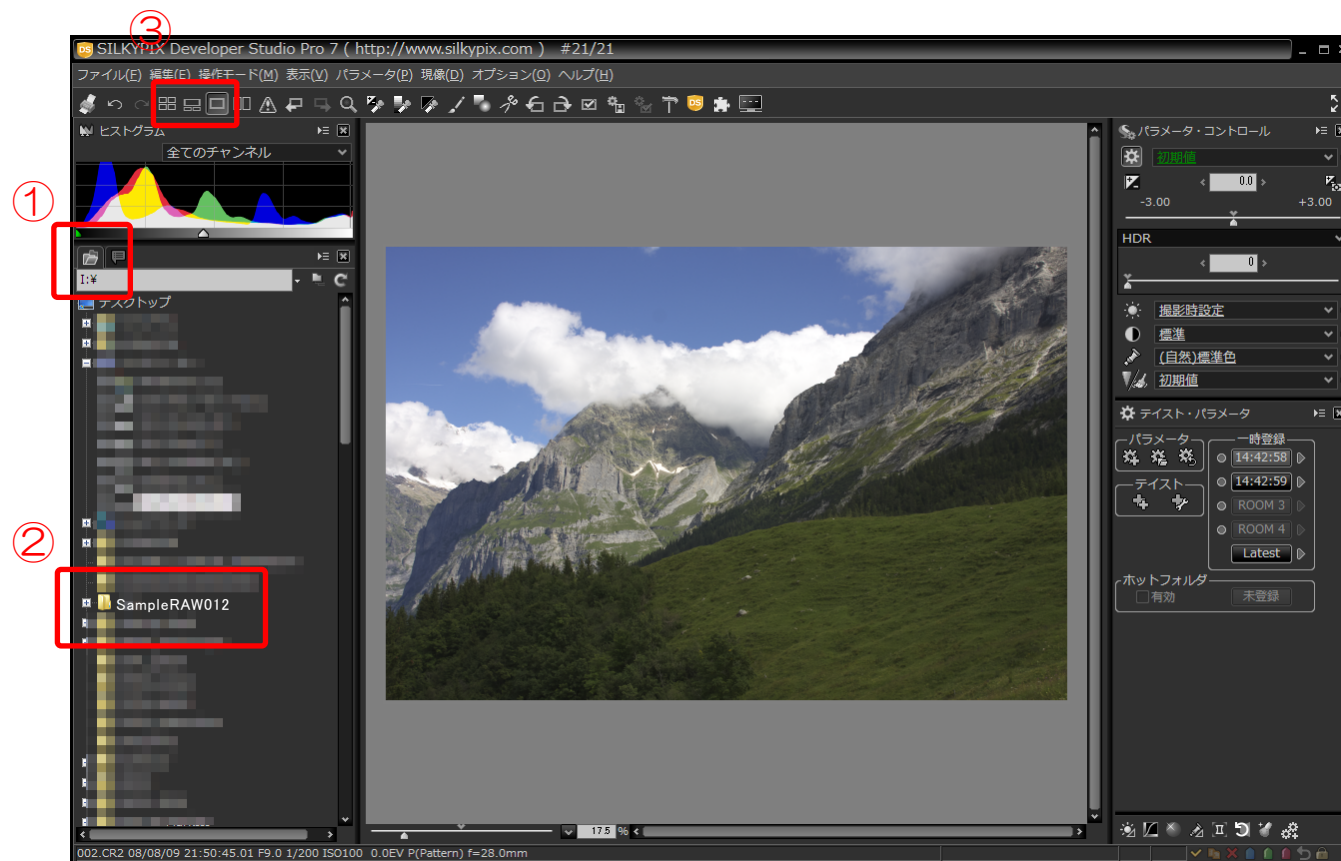


RAW 現像基本調整

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

1. RAW データを開く

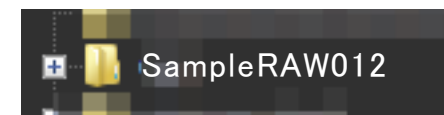


●フォルダーを開く

SILKYPiX はフォルダー単位で RAW データを開くことができます。



①フォルダーツリーアイコンをクリックして フォルダー一覧を表示します。



②フォルダーツリーからダウンロードした RAW データのあったフォルダーを選択すると開きます。

③表示モードを切り替える

サムネイル表示



フォルダーの中のデータを縮小版で一覧表示します。

コンビネーション表示



縮小表示と拡大表示を同時に表示します。

プレビュー表示

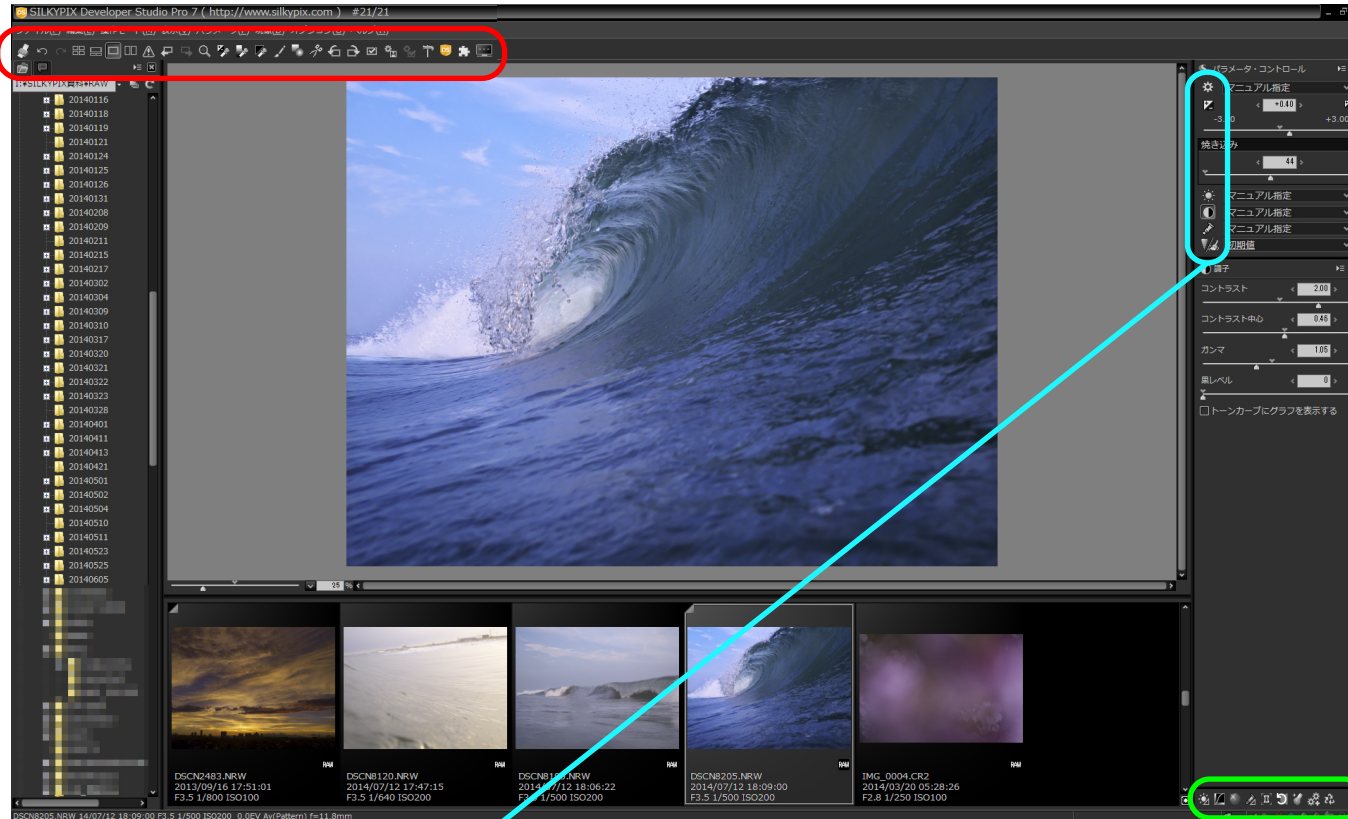


サムネイル表示で選択されたコマを大きく表示します。

RAW 現像基本調整

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

2. 画面構成



ツールバーでよく使う機能

- 印刷
- 画面表示切替
- ハイライト、シャドー警告など
- ゴミ取り
- 部分補正
- トリミング
- 90 度回転
- JPEG または TIFF に変換

メインコントロール

- 露出
明るさの調整
- ホワイトバランス
全体的な色合いの調整
- 調子
コントラストの調整
- カラー
鮮やかさの調整
- シャープ／NR
シャープネスと
ノイズリダクション

サブコントロール

- WB 微調整
色合いの微調整
- トーンカーブ
コントラストの調整
- ハイライトコントローラ
白とびした部分の調整
- ファインカラーコントローラ
特定の色ごとの調整
- レンズ収差補正
歪みや周辺減光の補正
- 回転／デジタルシフト
傾きや遠近感の補正
- 効果
美肌補正とノイズ付加
- 現像設定
AdobeRGB や sRGB の設定
- 編集履歴
任意の作業まで戻る。

RAW 現像基本調整

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

3. メインコントロール

①

②

③

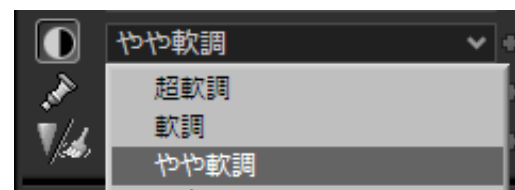
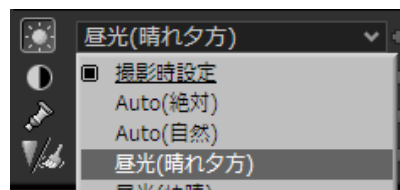


①カテゴリ選択アイコン

アイコンを選択すると③のタブページが切り替わります。

②テスト

あらかじめ登録されている設定をメニューから選んで調整を行います。おおまかな調整をここでやり③のスライダーで微調整できます。



③タブページ

①で選択したカテゴリの詳細な調整を行います。主に「スライダー」と呼ばれるコントロールでつまみを左右に動かして調整を行います。

●スライダーの初期値マーク



データを開いた時の値を示すマークとなります。最初の状態がわからなくなった時の目印になります。



RAW 現像基本調整

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

4. 調整前

データを開いたままの状態です。まずここで調整の目標を決めます。



①奥の山の雰囲気は残したい

朝もやに覆われた山の稜線はそのまま
早朝の静かなイメージに仕上げたい。

②合掌造りを少し明るくする

真ん中にあり、写真の大部分を占める合掌造りが
暗いので写真の雰囲気が伝わらない。

③手前の紫陽花を鮮やかにしたい

全体的に薄暗く、紫陽花も目立たないので
紫陽花を鮮やかにする。



RAW撮影のメリット

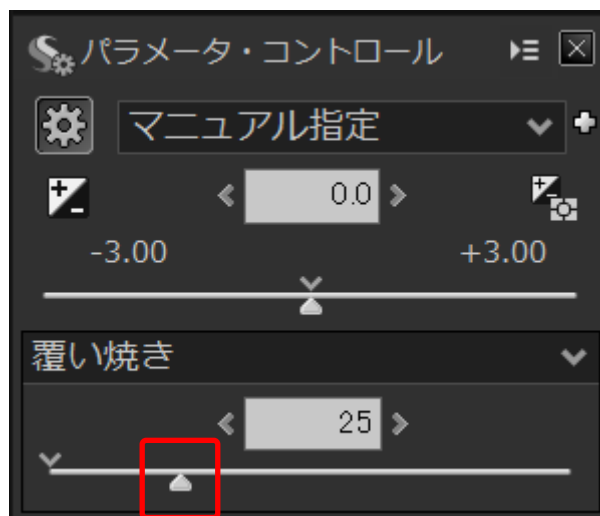
RAWデータで撮影しておくと、その場で納得がいく設定ができなくても、後でじっくり調整ができます。
せっかく行った絶景の写真も失敗が減ります！

JPEG 写真を後で調整しようとする、と、圧縮され一度仕上がったデータを調整するので画質が劣化してしまいます。

RAW 現像基本調整

5. 覆い焼き機能を使う

奥の山の明るさを残しつつ
手前の暗い部分を明るくする。



覆い焼き : 25

露出補正で全体を明るくしてしまうと
奥の山が薄くなってしまうので
ここでは覆い焼きを使用した。



覆い焼き / 焼き込み

覆い焼き：写真の暗い部分を自動で検出し、増感させることで明るく再現することができます。（暗い部分を明るく）
これは暗い部分にのみ適用され、明るい部分には影響がありません。

焼き込み：写真の明るい部分を自動で検出し、減感させることで階調を復元させることができます。（明るい部分を暗く）
これは明るい部分にのみ適用され、暗い部分には影響がありません。

RAW 現像基本調整

6. 『覆い焼き』と『HDR- 覆い焼き』の違い

今回の調整では、「覆い焼き」を使用しましたが Pro7 には「HDR- 覆い焼き」という機能があります。ではどのように違うのか写真で見てみましょう。



25



100



『覆い焼き』『焼き込み』と『HDR- 覆い焼き』『HDR- 焼き込み』

上の写真のように、同じ数値の変更でも『HDR- 覆い焼き』『HDR- 焼き込み』の方が効果が大きく現れます。『覆い焼き』『焼き込み』は、人間の視覚に近い自然なダイナミックレンジを得ることができます。HDR は人間の視覚を超えた高いダイナミックレンジを得ることができますが、強くかけていくと暗部と明部の境目が不自然になります。

RAW 現像基本調整

7. 手前の紫陽花を鮮やかにする



部分補正ツール 段階補正フィルタの追加

ぼかし量 : 75

彩度 : 50

コントラスト : 25

部分補正ツールの
段階補正フィルタで
紫陽花の部分のみを
補正する。



段階補正フィルタの明度

補正領域が解りやすくなるよう、初期設定では「明度 100」が設定されます。（明度変更なしは「0」）
そのため、明るくなった部分が補正される範囲だとお考えください。ここでは明るさを変えたくないの
で補正領域まで持って行った後に明度を 0 にしております。

RAW 現像基本調整

8. 手前の紫陽花を鮮やかにする

一番手前を明るくし、更にコントラストを高めることにより早朝の雰囲気を残しつつ、手前から奥までにメリハリを付け遠近感を表現する。



彩度の上げすぎには注意

彩度は鮮やかさを調整するのに使用します。しかし、被写体によっては彩度を高め過ぎると絵の具で塗ったようにべったりとした仕上がりとなり、階調感を損なう場合があるので、それに気を付けながら使用するのがおすすめです。

RAW 現像基本調整

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

9. 全体的に彩度を上げた場合

全体的に彩度を上げた時。



部分補正で紫陽花周辺のみ彩度を上げた時。

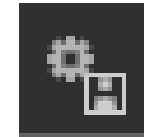


今回の写真のように、色の薄い写真を彩度を上げ補正する場合、全体に彩度を上げると奥の山が青くなってしまいます。せっかく色を薄く残しておきたかった場所も変わってしまうのでそのような場面では部分補正ツールを使い、その写真に合ったイメージを演出しましょう。


サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

10. 現像する

JPEG や TIFF に書き出す



① 1 コマ現像ボタンを押すと保存のダイアログが表示されます。

ファイルの場所(I)  デスクトップ

②ファイルの保存場所を選択します。

ファイル名(N) 002.jpg

③ファイル名を変更する場合は入力します。

ファイルの種類(T) JPEG画像(*.jpg)

JPEG画像(*.jpg)

マニュアル指定 TIFF画像(*.tif)

④ファイル形式で JPEG か TIFF を選択します。

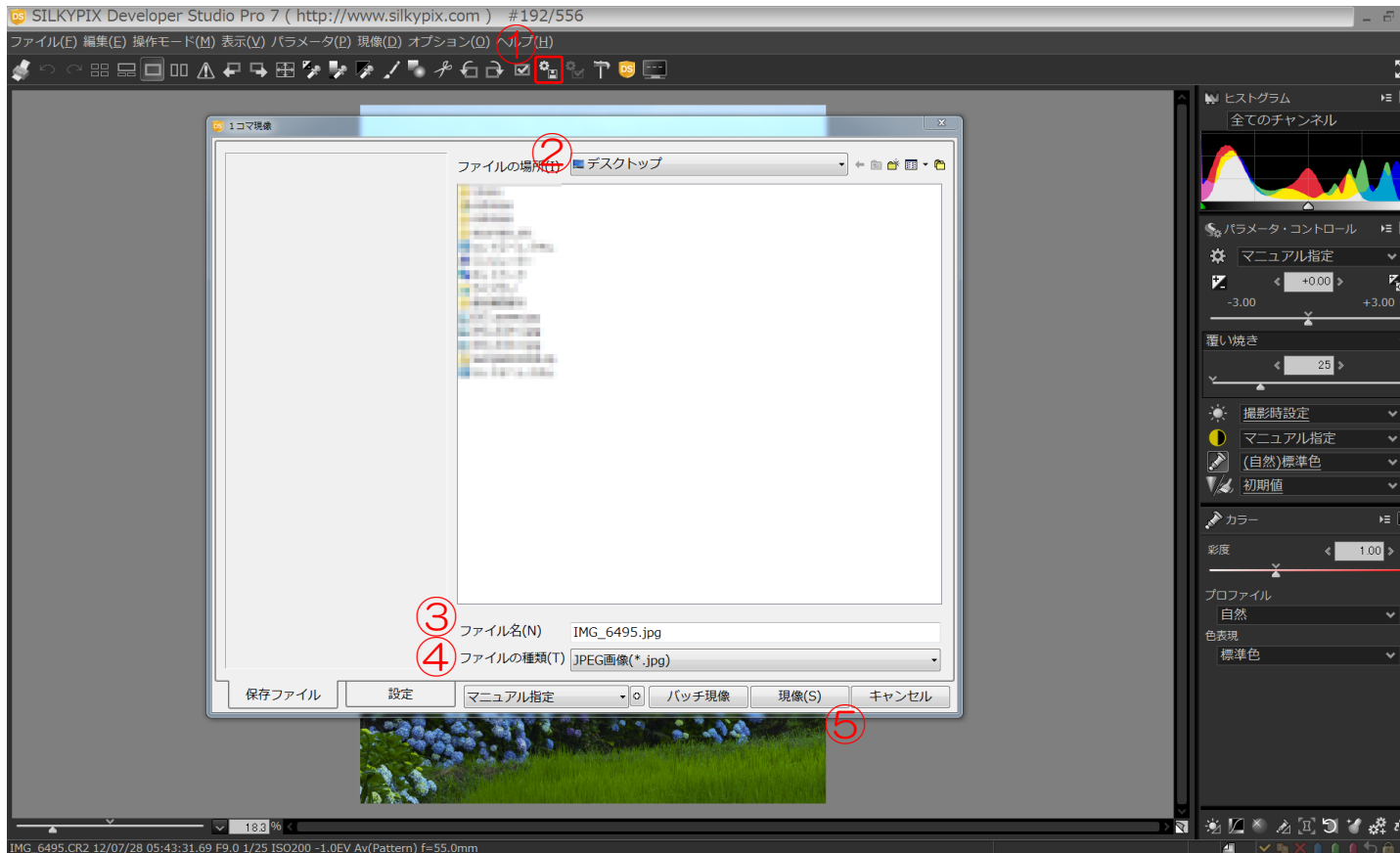
現像(S)

⑤現像ボタンを押すと RAW データから JPEG または TIFF の変換が始まります。



現像とは？

SILKYPIX では RAW データから JPEG や TIFF に変換する事を「現像」と呼んでいます。TIFF は 8bit または 16bit が選択できます。



RAW 現像基本調整

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

11. 調整前／調整後

元データは全体的に薄暗く、平面な印象でしたが真ん中の合掌造りを少し明るく、更に手前の紫陽花をより印象強く補正することによってメリハリが出て、立体感が表現できました。



今回の調整項目を参考に、皆さんの感性でいろいろと調整してみてください。